

使用目的

この検査キットは、膣の分泌物を綿棒で採取し、カンジダの早期発見を目的とした検査キットです。

説明

カンジダ症（VVC）は、膣に発生する最もポピュラーな感染症の一つであると考えられています。代表的な症状として、激しい痒み、膣の痛み、炎症、外陰唇の発疹（痒み）、排尿困難などが挙げられます。このテストは、綿棒で採取した子宮頸部の分泌物の検体から、15-20分以内にカンジダ成分検出することができる迅速で簡単なテストです。正しい結果を知ることは、カンジダ症の改善への第一歩です。

検査のしくみ

このテストは、採取した検体を緩衝溶液と混ぜることでカンジダタンパク質を可溶化させ、毛細管作用（表面張力現象で液体の移動をもたらす）の技術を利用して検査する免疫クロマトグラフィー装置を使用しています。混合緩衝溶液をテストカセットに滴下すると、混合液は膜表面に沿って移動し、結果が現れます。

保管及び取扱上の注意

- ・ 検査キットは、2 - 30℃の（凍らない場所）に保管して下さい。有効期限は袋に記載されています。
- ・ 雑菌の混入を防ぐため、検査キットは使用時まで開封しないでください。

キットの内容

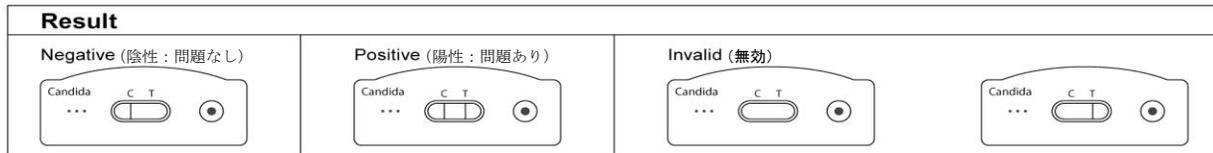
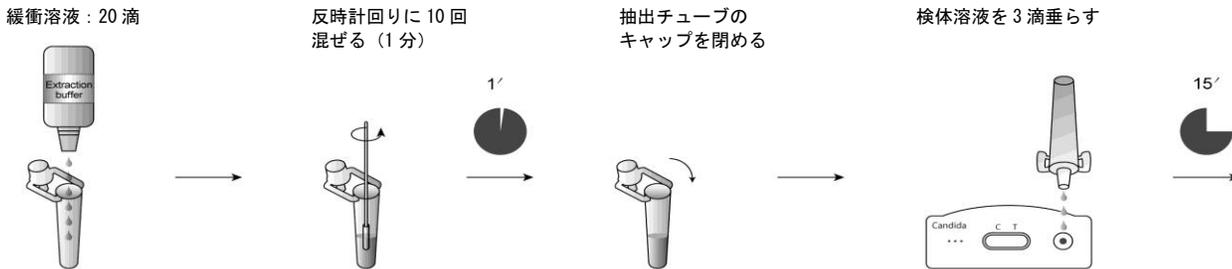
テスト3回分（個別包装）	抽出緩衝溶液1本 (Extraction Buffer)	綿棒3本	抽出チューブ3本	ワークステーション1台	説明書
--------------	---------------------------------	------	----------	-------------	-----

検体採取方法

綿棒を持ち、膣内部を傷つけないように注意しながら根元ぎりぎりまで挿入させてください（扁平円柱上皮界を超えて子宮頸管辺りまで約14cm）。子宮頸管部や膣細胞を傷つけないように20秒間しっかりと綿棒を回転させ綿棒を取り出します。その後、抽出チューブに綿棒を入れて下さい。

使用手順

- ・ 水平な台の上にワークステーションを置き、抽出チューブをセットします。20滴の抽出緩衝溶液を抽出チューブに加えて下さい。
- ・ 検体を採取した綿棒をチューブに入れて、検体と溶液がよく混ざり合うように反時計回りに綿棒を力強く最低10回回転させて下さい（1分間）。
- ・ 抽出チューブの内側で、付着した液体を絞りながら綿棒を取り出します。チューブの中になるべく多くの液体が残るようにして下さい。
- ・ テストには、綿棒を抜き取る前の少なくとも半分の液体を残しておく必要があります。綿棒を取りだしたら、抽出チューブのキャップを閉めて下さい。
- ・ 密封された袋からテストを取り出し、平らな場所に置いて下さい。最良の結果を得るために、検査は1時間以内に行って下さい。
- ・ テストカセットの上に抽出チューブから抽出されたサンプルを3滴（約100μl）滴下し、色の付いた線が現れるのを待ちます。結果は15分程で現れ、20分を過ぎて現れたものは無効となります（テストカセットは平らな場所に保って下さい）。使用後の綿棒と抽出チューブは他のものに触れず、かつ残った液体が外にこぼれ落ちないように包んで廃棄して下さい。



注意:

1. テスト範囲内の色の濃さ(T)は、検体に含まれている特定物質の濃度によって異なる場合があります。しかし、物質の濃度はこのテストで測定することができません。
2. 検体の量が少なかったり、間違った使用手順、期限切れの検査キットでテストを行うことは、テストの失敗を招く一番の原因となります。

使用上の注意

- ・ このテストは、IN VITRO（イン・ビトロ）診断の用途に限って有効です。
- ・ 有効期限が過ぎたものは使用しないで下さい。包装が破損している場合は、テストを使用しないで下さい。テストを再使用しないで下さい。
- ・ テストを行う前に、使用手順をよく読んで確認して下さい。
- ・ 検査物やキットが取り扱われる場所で、タバコを吸ったり、飲食をしないでください。
- ・ 全ての検査物は、テスト結果が陰性だとしても感染症の媒体物である前提として取り扱ってください。使用後は、適切な方法で廃棄処分してください。
- ・ 妊娠の疑いがある方、妊娠中の方は、この検査キットを使用しないでください。生理中の方は、正しい検査結果が出ないことがあります。
- ・ 性交渉後、48時間は検査を行わないで下さい。
- ・ テスト中は、テストカセットを水平な台の上に保って下さい。途中で動かすとテストの失敗に繋がります。